

一般社団法人WATALIS 平成26年度事業報告書

事業名	生きがい創出型手しごとワークショップ事業	実施期間	平成26年7月～平成27年3月
-----	----------------------	------	-----------------

事業目標

子育て中の母親、そして高齢者が被災地域でさまざまなストレスを感じながら孤立化するのを防ぎ、一人ひとりが生きがいを感じながら暮らせるような活気にあふれた地域づくりを目指して、官民が連携して地域全体が復興を成し遂げるために

1. 誰もが日常的に参加できる開かれた持続的な交流の場の創出
 2. 地域の大切な宝である先人の知恵や技術を伝承していくための学びあいの機会の創出
 3. 社会と繋がり生きがいを創り出すための就労に向けたトレーニングの機会の創出
- が求められている。

事業内容

住民同士の繋がりが希薄化した被災地域において、「子育て中の母親や高齢者の孤立化」を防ぎ、「児童虐待」の抑止力となる人間関係と「安全・安心な子育ての環境」となる新たな地域コミュニティを創ることを目的に、子どもから高齢者まで誰もが気軽に立寄り交流できる開かれた場で、ワークショップや茶話会を定期的に開催し、高齢者の子育ての知恵や手しごとの技術を共有しながら、被災地域住民の生きがいと復興への意欲を創出する事業

1 実行委員会の開催

① 設置目的 事業実施に関する課題の把握、整理、検討及び事業の進捗管理

② 委員構成 計6名(一般社団法人WATALIS関係者を含む)

・委員長 橋元 あゆみ(一般社団法人WATALIS・理事 兼 会計) * 謝金・旅費対象外

・委員 齋藤 淑子(製作指導ボランティア)(謝金対象)/池座 剛 (災害復興ボランティア)(謝金・旅費対象)/高田 次朗 (Webプロモーションアドバイザー)(謝金・旅費対象)/榎本 幸弘 (編集アドバイザー)(謝金・旅費対象)/山形 トシ子(広報ボランティア)(謝金対象)

第1回 実行委員会

<開催時期>平成26年8月8日 <開催場所>WATALIS <出席人数>7名(自団体事務局1名)(うち謝金対象5名、旅費対象3名)

<議題>

○今年度の事業概要について

- ・助成事業の趣旨の確認
- ・事業内容の確認
- ・事業実施のスケジュールの確認

○生きがい創出型手しごとワークショップの実施内容について

- ・日程及び会場について
- ・講師について
- ・現地協力団体との連携について
- ・ポスター、チラシの内容及び配布先について
- ・広報活動について 地元FMラジオ、東北復興新聞、webサイトの活用、現地NPOとの連携など

○その他

- ・事前にメール及び電話で共有していた情報の確認

第2回 実行委員会

<開催時期>平成26年10月10日 <開催場所>WATALIS <出席人数>7名(自団体事務局1名)(うち謝金対象5名、旅費対象3名)

<議題>

○生きがい創出型手しごとワークショップの実施状況について(7月～9月)

- ・ワークショップの内容について(製作物、進行スケジュール)
- ・参加状況について
- ・アンケート調査の結果について

第3回 実行委員会

<開催時期>平成26年12月12日

<開催場所> WATALIS

<出席人数> 7名(自団体事務局1名)(うち謝金対象5名、旅費対象3名)

<議題>

○生きがい創出型手しごとワークショップの実施状況について(10月～11月)

- ・ワークショップの内容について(製作物、進行スケジュール)
- ・参加状況について
- ・アンケート調査の結果について

第4回 実行委員会

- <開催時期> 平成27年1月16日
- <開催場所> WATALIS
- <出席人数> 7名(自団体事務局1名)(うち謝金対象5名、旅費対象3名)
- <議題>

- 生きがい創出型手しごとワークショップの実施状況について(12月)
 - ・ワークショップの内容について(製作物、進行スケジュール)
 - ・参加状況について
 - ・アンケート調査の結果について

第5回 実行委員会

- <開催時期> 平成27年2月27日
- <開催場所> WATALIS
- <出席人数> 7名(自団体事務局1名)(うち謝金対象5名、旅費対象3名)
- <議題>

- 生きがい創出型手しごとワークショップの実施状況について(1月～2月)
 - ・ワークショップの内容について(製作物、進行スケジュール)
 - ・参加状況について
 - ・アンケート調査の結果について
- 調査報告書作成について
 - ・報告書掲載内容について
 - ・調査報告書に係る原稿執筆担当について
 - ・原稿提出について(書式、期限など)
 - ・最終校正について
 - ・報告書送付先について
 - ・送付作業への協力について
- 今年度事業の反省及び改善点について
 - ・事業内容について
 - ・事業実施スケジュールについて
 - ・事業予算について
 - ・他団体との連携について

2 ワークショップ・茶話会の開催について

① 開催目的及び内容

住民同士の繋がりが希薄化した被災地域において、「子育て中の母親や高齢者の孤立化」を防ぎ、「児童虐待」の抑止力となる人間関係と「安全・安心な子育ての環境」となる新たな地域コミュニティを創ることを目的に、子どもから高齢者まで誰もが気軽に立寄り交流できる開かれた場で、ワークショップや茶話会を定期的に開催し、高齢者の子育ての知恵や手しごとの技術を共有しながら、被災地域住民の生きがいと復興への意欲を創出。地域住民を対象として、誰もが気軽に立寄り交流できる開かれた居場所を開設し、手しごとワークショップと茶話会を組み合わせて定期的(毎月4回×8か月)に開催した。運営に際しては、参加者の居住地には特に制限を設けず、広域的な交流の場とした。

今年度は、これまで2ヶ年実施してきた手しごとワークショップのノウハウを活かし、就労に向けたトレーニングの要素も盛り込めるよう雑貨などの基礎的製作方法を学べるようなメニューを考案し、実施。また、製作後の茶話会では、参加者の事業への参画を促しつつ、互いに交流しながら楽しく学び、時には悩みを語り合えるような場創りに努めた。長期的に事業を持続するための方策として、茶話会の茶菓代の経費の一部として参加費100円/回を徴収し、参加者の受益者負担の意識を高めた。

(講話及び実技研修2時間、交流のための茶話会1時間計3時間程度)

(講師謝礼対象時間各回ごと2時間)

② 開催日

平成26年7月、8月、9月、10月、11月、12月、平成27年1月、2月 各月ごとに4回 全32回

③ 場所

被災地域 宮城県亘理町内 WATALISワークショップ会場

(被災地域内の公共施設などは通年で定期的に会場として使用することが困難な状況であるため、WATALIS事務所に隣接する建物を借用。)

④ 対象者

地域住民(子育て中の保護者、高齢者等 各回20名程度参加予定)

福島県住民などをはじめ、亘理町以外の住民の参加も積極的に受け入れることで、交流の幅を広げた。

⑤ 講師(各回ごとに1名各回ごとに1名(謝金対象1名))

小川百恵(手しごと愛好家)(謝金対象1名)

齋藤真奈美(手しごと愛好家)(謝金対象1名) <H26.9月まで>

高谷真寿美(手しごと愛好家)(謝金対象1名) <H26.10月から>

○その他、必要に応じてボランティア講師を活用した。

齋藤淑子(編み物講師) * 謝金・旅費対象外

⑥ 広報

チラシ3,000部、ポスター100部を月1回作成した。(年8回)

配布先: 地方公共団体、公共施設、災害復興ボランティア関係団体関係者、メディア関係、関係団体、他希望者
宮城県亶理町臨時災害エフエム「FMあおぞら」に取材と参加呼びかけのための放送を依頼した。亶理町内で活動するNPO法人「亶理いちごっこ」に告知チラシ配布を依頼し、WATALISのHPでも事業実施の告知や実施状況の報告を行い、高齢者を中心としたあらゆる参加者の確保に結びつけた。

⑦ 開催準備、当日運営補助、後片付けのためのアルバイト

(被災地域である宮城県内在住者1名 × 5H × 32回雇用)

⑧ その他

優良類似事業を現地調査し、円滑な運営と事業の質の向上に資するよう情報収集に努めた。

視察研修

<実施時期> 1月17日(土)14:30 ~ 16:30

<場 所> みちくさアートラボ 東京都台東区浅草橋1-31-4 大原第三ビル3階B室

<参加人数> 3名・実行委員会委員長 橋元あゆみ・WATALIS代表理事 引地恵・WATALIS理事 菊地 喜久江

<内 容> 1. ヴィンテージネクタイコースージュ講座(14:30 ~ 16:30) 講師1名、カフェスタッフ1名

使用するネクタイを選び、バラ(3種)、ダリア(2種)の中から好みのデザインのコースージュを製作した。

2. 施設内見学(16:30~17:30) 通常はカフェ及び商品展示販売スペースとして利用料500円/時間+飲み物代でカフェを利用できる同会場を利用してレッスンをを行う講師の作品も常時販売していた。

【連携団体の役割】

・公益財団法人共生地域創造財団: ワークショップの円滑な運営のための支援(ボランティア確保・物資提供など)、福島県内からの参加者を募るための告知などの広報活動

3 バザーの開催

① 開催目的及び内容

・子育て中の母親や高齢者の特性に応じた就労支援として、ワークショップ参加者の中から希望者を募り、ワークショップの開催日にあわせてバザーを開催した。各人が製作した手しごと商品を販売し、売り上げを製作者に渡すことにより手しごとによる就労への意欲ときっかけを作り、経済的自立をとおして生きがいを見出すための一助とし、長期的視野に立った被災地域内での就労支援を行った。

② 開催日

平成27年2月19日~23日 全5回

③ 場 所

被災地域 宮城県亶理町内 WATALISワークショップ会場

(被災地域内の公共施設などは通年で定期的に会場として使用することが困難な状況であるため、WATALIS事務所に隣接する建物を借用。)

④ 対象者

地域住民(子育て中の母親や高齢者など10名程度販売者として出展予定)

亶理町以外の住民の参加も積極的に受け入れることで、支援の幅を広げた。特に高齢者や子育て中の母親など、就労が困難な層の参加を促すよう努めた。

⑤ 広 報

事業告知のため、チラシを発行した。(200部 1回)

予算

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成金 5,406,000円(E)

総事業費	5,266,962円(A)
自己資金	77,962円(B)
差引事業費	5,189,000円(C)=(A)-(B)
助成金返還額	217,000円(E)-(C)

人員体制

主担当: 代表理事 引地恵(助成事業の全体の取りまとめ 実行委員会の開催に関すること)

副担当: 理事 橋元あゆみ(ワークショップ・研修会・バザーの開催に関すること 経理担当)

副担当: 理事 菊地喜久江(事業報告書の作成に関すること)